



日射比例かん水と慣行かん水で比較した切り花品質と作業時間

処理区	収穫日	切り花品質			かん水にかかる 総作業時間 (h/10a/作)
		切り花長 (cm)	節数 (節)	90cm 調整重 (g)	
日射比例かん水	1/25	103.0	52.9	76.9	0.8
慣行かん水	1/23	100.9	53.0	72.1	7.5

注) かん水にかかる作業時間は、日射比例かん水区は機器設定にかかる時間、慣行かん水区は圃場までの移動および出水・止水にかかる時間を積算した。

輪ギクに日射比例かん水

作業時間9割短く品質は向上

現場で使える！研究成果

現在、輪ギク栽培では数日置きに手動でかん水を行う方法が主流である。一方で、施設野菜品目では日射量に応じて自動でかん水を行う日射比例かん水が導入され始めている。

日射比例かん水は、植物の吸水量と日射量が比例関係にあることから、制御機器を用いて日射量が増えるごとに自動でかん水も増やす手法であり、省力化や増収、品質向上などが期待できる。そこで、輪ギクにおいて

も日射比例かん水の有効性を検証するため、切り花品質に及ぼす影響について調査した。

秋輪ギク品種「神馬」を10月5日に植え付けし、11月11日から日射比例かん水（積算日射量2〜3MJ（メガジュール）/平方メートルに70〜120秒自動でかん水）と慣行かん水（数日置きに手動でかん水）の各かん水処理を開始し、11月30日に消灯処理を行った。

その結果、日射比例かん水を行うと慣行かん水

と比較して切り花長が高くなり、90%調整重が増加した。また、かん水にかかる作業時間は日射比例かん水を行うことにより約9割の削減となった。

これらのことから、日射比例かん水で、かん水の作業時間を大幅に削減しつつ品質を向上でき、輪ギク栽培に有効であることが明らかとなった。

（農林技術開発センター 農産園芸研究部門 花き・生物工学研究室 主任研究員 久村麻子）